

* 第 34 回小出記念日本語教育学会年次大会 *

日時：2025 年 6 月 28 日（土） 9 時 40 分～16 時 40 分

開催方法：オンライン（Zoom）

申込締切：6 月 16 日（月） 定員：400 名 参加費：会員 無料 非会員 2,000 円

事前申込登録：会員の方は ML をご参照ください。

非会員の方は右記よりお申込みください。 <https://koide34th250628.peatix.com/>

* プログラム *

2025 年 6 月 28 日（土）

09:40～10:10 会員総会

10:20～10:30 開会・プログラム説明

挨拶 丸山千歌（小出記念日本語教育学会 学会長）

10:30～12:20 第一部 講演

「対話を通した学習者オートノミーおよびウェルビーイングの促進」

講師：加藤聡子氏

（神田外語大学 学習者オートノミー教育研究所 准教授）

12:20～13:20 お昼休憩

13:20～16:15 第二部 口頭発表

16:25～16:40 閉会・事務連絡

挨拶 金澤協子（小出記念日本語教育学会 理事）

【口頭発表 第1会場】

●司会 石澤徹（小出記念日本語教育学会 編集委員）

13：20～13：50 日本語力成績上位群と下位群による発話時の不安要素の差

— 秦日工業大学におけるタイ人日本語学習者の場合 —

島田良幸（大阪観光大学別科）井上雅司（秦日工業大学） 1-(1)

13：55～14：25 断りにおける日本語母語話者および中国人日本語学習者のフィラーの特徴

— I-JAS「断り」場面のロールプレイを用いて —

蔣文心（目白大学大学院生） 1-(2)

14：30～15：00 韓国人日本語学習者の感謝の表現に関する韻律上の工夫と日本語母語話者の聴覚印象

— 「ありがとうございます」を一例として —

趙允彬（元早稲田大学大学院生） 1-(3)

15：00～15：10 休憩

●司会 麻生迪子（小出記念日本語教育学会 編集委員）

15：10～15：40 相互行為における代用表現「あれ」の機能についての一考察

— 自身の発言や言語行動に対して「あれ」を用いる場合を事例として —

杉山郁美（宇都宮大学大学院生） 1-(4)

15：45～16：15 意見の対立をどのようにして課題遂行の促進につなげるか

— 日中接触場面における四者間の話し合いに注目して —

袁姝（東京外国語大学） 1-(5)

【口頭発表 第2会場】

●司会 中北美千子（小出記念日本語教育学会 会員）

13：20～13：50 日本語教育 × VR・AR への挑戦

— 教室を超えたバーチャル学習 —

吉村由紀（マサチューセッツ大学アマースト校） 2-(1)

13：55～14：25 この時間に予定されていた発表は、発表者の都合により中止となりました。

2-(2)

14：30～15：00 生成 AI の利用経験が学習者の認識と倫理観に及ぼす影響

— 日本語教育における適用可能性の視点から —

水田佳歩（青山学院大学） 2-(3)

15：00～15：10 休憩

●司会 鄭在喜（小出記念日本語教育学会 編集委員）

15：10～15：40 中国の日本語教科書における「～ていただく」の扱われ方に関する現状と課題

李航（一橋大学大学院生） 2-(4)

15：45～16：15 学部留学生初年次教育における CLIL に基づく日本語授業を振り返る

古川嘉子（帝京大学）初鹿野阿れ（同） 2-(5)

【口頭発表 第3会場】

●司会 岡葉子（小出記念日本語教育学会 編集委員）

13：20～13：50 ベトナム Z 世代の日本語学習者の留学の意味づけ

— ウェルビーイングの視点からの考察 —

山川史（Vietnam Japan University） 3-(1)

13：55～14：25 留学生が「書くこと」に対して抱く苦手意識

— エンゲージメントの観点による質的分析 —

小林真也（東京外国語大学大学院生） 3-(2)

14：30～15：00 指導経験 5 年未満の日本語学校等教員は書くことの指導の何に難しさを感じているのか

— 大学の日本語教員養成課程の授業開発に向けて —

鎌田美千子（東京大学大学院）坪根由香里（大阪観光大学）

副田恵理子（藤女子大学）西村美保（清泉女子大学） 3-(3)

15：00～15：10 休憩

●司会 李奎台（小出記念日本語教育学会 会員）

15：10～15：40 インドネシア人日本語教師の語りから探る学び続ける意味

— 複線経路・等至性モデリングによる分析 —

栃丸華緒（国際医療福祉大学）杉島夏子（東北学院大学） 3-(4)

15：45～16：15 日本語自律学習支援アドバイザー育成のためのケース・スタディ研究

— 来訪者分析に基づく事例集の開発過程と活用課題 —

寅丸真澄（早稲田大学）吉田好美（群馬大学）佐々木さくら（麗澤大学）

プーフィンピュ（国際交流基金日本語国際センター） 3-(5)

◆第 34 回年次大会アンケートにご協力お願いいたします◆

<https://forms.gle/3jsW25yUounztzCT6>

※学会開始後にアクセスできます。



問い合わせ・連絡先：小出記念日本語教育学会

〒181 - 8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2 国際基督教大学日本語教育プログラム 小澤研究室気付

FAX：0422-33-3773 電子メール：office.koide.kinen@gmail.com <https://koidekinen.org/>

主催：小出記念日本語教育学会